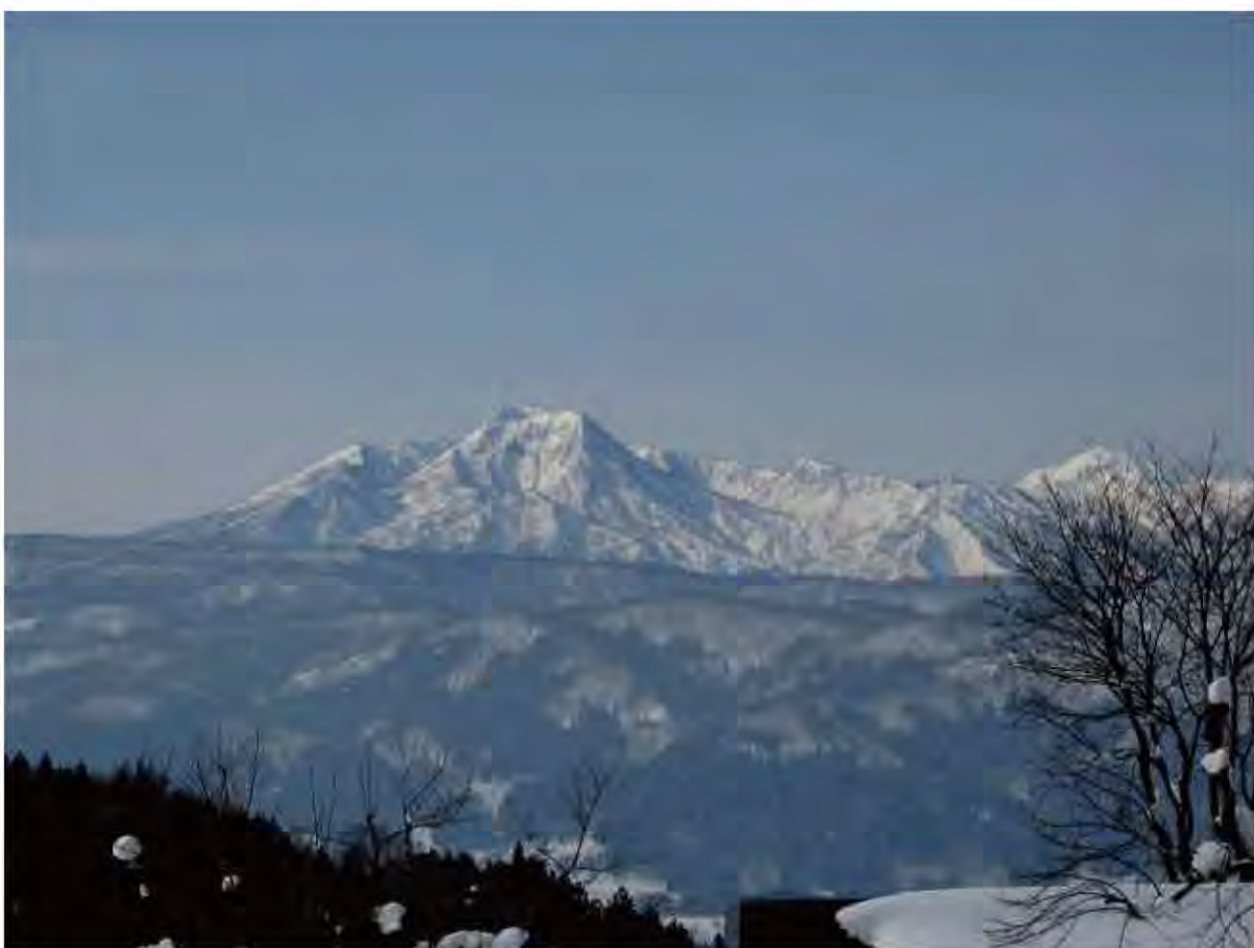


信州の「山の寺」と聖地

～遺構・史料・景観から読み取る「場」の意味～



飯山市小菅集落内から見た妙高山（2013.1.21 撮影）
集落中央の「カイドウ」延長線上に位置する

長野県教育委員会 文化財・生涯学習課
遠藤 公洋

I.はじめに

1. 今日の私のスタンス

- 1) 地域の中の城や寺などが関心の対象
- 2) アプローチは遺構・空間・古文書

2. 予定している報告の内容

- 1) 小菅の遺構群と、その調査で学んだこと
- 2) 「会田」の地を史料からどのように読み解くか ～若干の試行
- 3) 景観と空間から考える信濃の霊場と「会田」

II.小菅の信仰遺構群と、そこから学ぶこと

1. 小菅ってどこ？ ナニが問題なの？

- 1) 小菅とは ～飯山市の千曲川右岸の山中
- 2) 小菅の謎

(1).上杉謙信（以下、「謙信」に統一）が取り上げた「三つの霊場」

『上越市史別編』(四一五)	御宝前 弥彦	永禄七年甲子六月廿四日 上杉輝虎(花押a)	一 武田晴信悪行之事	上杉輝虎願文
			一 伊繩・戸隠・小菅急転、不備仏供油明事	
			一 塚原陣之時、以駿河之無事、既驚神慮、以誓詞申合、翻翌日事	
			一 於信州、寺社神領俗方出之、仏法破滅之事	
			一 武田無好処、隣州隣郡懸望、無道之故、敵味方共、堂社仏堂焼失、是武田晴信過故之事	
			一 信州之仏神氏子、或滅亡、或及牢道乞食所、今般於不被添仏力、誰か可尊神慮哉事	
			一 既直親武田信虎追出国、牢道為及乞食失高義事、是仏神之不可叶内証事	
			一 当秋中武田晴信退治、輝虎於達本意、寺社神領堂社仏堂、如前々及心通相稼可申付者也、仍如件	

(2).小菅には「信濃国高井郡小菅山八所権現并元隆寺来由記」（以下「来由記」）と「小菅山略縁起」（以下「略縁起」）という2種の縁起があり、これに関連する史料も含めると、中世後期の小菅の盛衰はおよそ以下のように描かれている。

- ・貞治四（1365）年：「回禄の変（火災）」で灰燼に帰す（来由記）
←足利義満、泉重氏が応安元（1368）年～嘉慶二（1388 / 北朝）年に復興（来由記）
- ・天文（1532～）年間：「景虎公（上杉謙信）御願」として再び建立（略縁起）
- ・弘治三（1557）年：長尾景虎願文 ←小菅山元隆寺に奉納（謙信公御書集）
- ・弘治三（1557）年：「甲州武田家軍兵襲来監妨狼藉加之放火」（当山興廢之事）
- ・永禄七（1564）年：願文の中で「小菅急転（退転）」と謙信が記す（上杉家文書）
- ・永禄十（1567）年：川中島合戦の時「兵火の災」でことごとく炎上（略縁起）
←ただし、川中島合戦は永禄十年には終息している
→その後三十余念「亡所」となる（略縁起）
- ・慶長三（1598）年：上杉景勝が奥州（米沢）に八所権現を建立し、大聖院以下も移転、残ったのは「宗徒四五坊、神主一人」（当山興廢之事）
- ・慶長五（1600）年：「景勝公の求めによってこれ（略縁起）を記進」（略縁起）

2. 小菅の信仰遺構とは

- 1) 「内山」と呼ばれている山林の中から、おびただしい造成痕が検出された
 - (1).石垣と平場
 - (2).特徴的な巨礫
 - (3).築地様の石罫
- 2) 石垣と石罫からなる軸線をもった空間構成
- 3) これは本当に信仰遺構なのか？ いつの遺構なのか？

3. 学んだこと 1: 近世文書から中世を読み解けること ~ 霊場の記憶

- 1) 宝永六（1709）年の「境内内山新畑見取帳」の発見
 - (1).「かやきり」「日光坊」「太平木」「花清水」が浮かび上がった →表1
 - (2).畑になった「日光坊」
- 2) 「見取帳」に現れた霊場の遺構
 - (1).「らんとう」の南と東にある「石垣」 →文書A
- 3) 「永代行事」の覚書に残る「カタチ」が示すもの
 - (1).「石垣」と内山地籍の扱われ方 →文書B

↓ 文書B

…前略…

一 内山畑方社領八勿論、公儀分少々あれとも、うるし木ハ皆此方にてかき取、実もとる。是昔私領之時故実致

一 内山百姓持畑側竹木此方へ伐取。百姓伐度節ハ此方へ願出、任差図。公儀持の分ハ先之心次第

…後略…

目録番号〈別箱二四〉

※十八世紀初期頃成立か

↓ 文書A

…前略…

らんとう南新畑下ノ初一枚 東西十二間半 南北十八間 見取米七升 石垣共皆除

…後略…

目録番号〈別箱一〇〉

表1: 小菅村の検地帳に現れる霊場関連地名

	絵図／縁起の記載	慶安五年社領検地帳	慶安五年畑方検地帳	慶安五年田方検地帳	宝永六年内山新畑見取帳	
自然的な景観地	蓮池 大海清水 桂清水 花清水 南龍池 北龍池	はず池 大かひ かつら清水 池田	はずいけ 大海／大かい かつら清水 はな清水 池田	はずいけ／はず池 いけた／池田	花清水	
一山の施設	仁王門 二の鳥居	二王大門 鳥居大門	にわう大もん 鳥居大門	にわうたいもん／にわう大門 鳥居大門		
堂・社	奥院 伽耶吉利堂(本地堂) 里宮 常楽堂 八幡宮 白山 不詳(仁王堂であろう)	常楽堂	しゃうらくとう／じやうろくどう／せうろくどう		かやきり ※享保15年から「堂所」との記載 常楽堂 八まんとう(八幡堂であろう) 白山	
院・坊	大聖院 日光坊 桂本坊 池之坊 圓正坊 窪井坊 柳本坊	日光坊 日光坊屋敷 かつら本 池之坊 円正坊	日光坊 同所(日光坊)屋敷 いけのぼう／いけの坊 ゑんせうば くほいぼう やなき本		日光坊	
塚	不詳(位置は別の絵図でわかる)		念佛つか			所在不明
その他	風切峠の小菅側 太平木		はちまんでん かさきり	八まんでん		八幡田(御供田か) 太平なし(太平木?) 北太平なし上大杉(太平木?)

※赤字は絵図中で大きな違いがない「不動点」
 ※北大門と上大門は絵図に施設として描かれず、「大門の北(上)」の意と理解して省略

4. 学んだこと 2: 霊場の遺構は多様に変化すること

- 1) 宝永六（1709）年の「境内内山新畑見取帳」が明らかにした小菅山本堂の変遷
 - (1).かつて存在した「伽耶吉利堂」 ← 馬頭観音：「ハヤグリーバ」
 - (2).廃絶して名のみが残った「伽耶吉利堂」
 - (3).宝永六（1709）年までに新畑となった「伽耶吉利堂」
 - (4).享保十五（1730）年からは再び「堂所」として扱われた「伽耶吉利堂」
←別の史料に享保十四（1729）年に「本堂」再建の記事あり
 - (5).絵図に描かれた本地堂
※.現在、伽耶吉利堂跡にある異質な（勾配がある）法面の説明がつく
- 2) 「境内内山新畑見取帳」が明らかにした小菅山本堂の変遷
※.明治期まで耕地・植林地として使われていることを常に意識しないと危険

長野県史から抽出した曹洞宗寺院の動向（年代順）

- 大田市 霊松寺：応永十一（1404）年、仁科盛忠 信濃における曹洞宗最初の拠点
- 東御市 定津院：宝徳元（1449）年、禰津信貞
- 松本市 広沢寺：宝徳元（1449）年、小笠原持長が臨濟宗寺院を改めて中興（寺伝）
- 佐久市 龍雲寺：文明十五（1483）年、大井氏が臨濟宗寺院を改めて再興
- 岩松院 小布施町：文明四（1472）年、臨濟宗寺院から改宗（寺伝）
- 金松寺 松本市：明応元（1492）年、臨濟宗寺院から改宗（寺伝）
- 松本市 保福寺：文亀二（1502）年、臨濟宗寺院から改宗（寺伝）
- 坂城町 満泉寺：永正元（1504）年、村上顯国が天台宗寺院を改めて中興
- 筑北村 碩水寺：享禄年中（1528-32）、真言宗寺院から改宗
- 佐久市 正安寺：文亀年中（1501-03）、臨濟宗寺院から改宗（寺伝）
- 筑北村 碩水寺：天文元（1532）年、青柳頼長が中興
- 小川村 法蔵寺：天文五（1536）年、臨濟宗寺院から改宗（寺伝）
- 佐久市 安養寺：天文十九（1550）年、臨濟宗寺院から改宗（寺伝）
- 上田市 東昌寺：天文二十（1551）年、臨濟宗寺院から改宗（寺伝）
- 山ノ内町 温泉寺：天文二十三（1554）年、臨濟宗寺院から改宗（寺伝）
- 上田市 安楽寺：文禄三（1594）年、臨濟宗寺院から改宗（寺伝）

3. 「信濃国道者之御祓くはり日記」と近世史料を重ねてみると ～トライ2

- 1) 会田町村長安寺の虚空蔵菩薩の開帳が両瀬村で行われる 安政二（1855）年
- 2) その際、「取締り」などの役は藤池、会吉新田、長越の各村
 - ※.なぜこれらの村々が関与して長安寺の開帳が行われるのか？
 - ←これを考えるのが大切ではないか？ 祈りの「カタチ」

4. 中世史料と重ねて浮かぶ「会田」という場の評価 ～トライ3

- 1) 「信濃国道者之御祓くはり日記」で会田同様「まち」とされる長沼
 - 長沼の「まち」は、どうやら「宿城」と呼ばれた空間 →文書C
- 2) 四月廿日（天正十一年）付け嶋津忠直書状に見える「大切所」 →文書D
 - (1).「境目」としての会田

↓文書C

↓文書D

直江兼統書状

：前略：貴入宿城へ乗籠、数刻相戦、被得勝利之達 上聞候、尤無比類之由御感候：後略：

（天正十年）
四月三日 直与兼統在判
小伊入（小倉伊勢入道）
参

『上越市史別編』△三二八△

嶋津忠直書状

：前略：此上早々先半途訖各御帰陣可然候、会田口大切所之義候条、自然、至深志之御動など八無勿躰存候、かゝる御勝利之時分者、先九分二被成口て不叶義候、其御心得尤候、恐々謹言

：後略：

天正十一年甲
四月廿日 忠直(花押)
左京亮殿
参

『上越市史別編』△二七四△

5. 学んだこと 3: 景観と空間構成の大切さ

- 1) 「カタチ」の大切さ
 - ～小菅は妙高を見る霊場

諏訪縁起事

：前略：東方見給、上野伊香保・赤城・常陸、筑波見、南方見給、富士高根・秩父山・甲斐白根、心憂夢科嶺見、西方見給、更科山・稻武嶽・苔御嶽見、北方見給、妙光山、御嶽・戸隠山・四妻屋嶽、越後国内葉嶽見給：後略：

「神道集」（14世紀成立）→
甲賀三郎が浅間山から周囲を見回すくだり
※.あきらかに、遠方の信仰の山を望見する心意の存在が読み取れる。

6. 学んだこと 4: 霊場空間のダイナミックな転換はあり得ること

- 1) 「カタチ」にこだわりすぎないことも大切 ～最初から妙高を見たわけではない小菅

III. 「会田」の地をどう読み解くか ～史料からのアプローチ

1. 史料を「読む」とは…

- 1) 中世の史料
 - 残存点数が少なく、使用者がいれば要点しか書いてないのが中世史料
 - だから：文字以外のものを読む、比べてみる、「意味」を読み込む
- 2) 近世の史料の場合
 - 点数が多く詳細だが、中世との時間的壁をいかに越えるかが課題
 - だから：「カタチ」から読み解く ex. 小菅の「殺生禁断」

2. 「信濃国道者之御祓くはり日記」を読んでみたら ～トライ1 →文書(別紙)

- 1) 書札礼から何か見えるか？ →空振り
- 2) 「糸ヶ寺」とは何か？ →大事なものがセットで浮かび上がる
 - (1) 「糸ヶ寺」を「会下寺」とひとまず断定した理由
 - 『禅苑清規』という禅宗の規範：12世紀初頭に僧で編纂された禅宗の規範
 - 道元が繰り返し引用しているが、曹洞宗だけのものではない
 - 「六頭首」：首座・書記・蔵主・知客・浴主・庫頭
 - (2) 面的に広がる禅宗の「痕跡」
 - 図書館や大学がある拠点の禅林の可能性
 - 仮に、会田地域を禅宗の拠点と考えた場合、近隣地域の動向は？ →年表A
 - 信濃には15世紀初頭に曹洞宗の拠点が、まず大町にできる
 - 15世紀中には松本地域に浸透した

殿村遺跡や虚空蔵山の石垣遺構に関して検討されている「15世紀」の意味

- 3) 「まち」を手がかりにできないか
 - 「信濃国道者之御祓くはり日記」に出てくる「まち」 →刈谷原、長沼

延享三年に描かれた絵図(ただし古図)」



飯山市小菅地区所蔵

「延享三年に描かれた絵図(ただし古図)」部分拡大



原本には空隙

①

岩下殿 ^{茶五つ} ^{茶一握} ^{茶十袋}
 同名筑前守殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同名備前守殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同名丹波寺殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同名源田殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同名監物殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同名しま殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 鳥羽助承殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同名与三衛門殿 ^{茶五つ}

②

藤松文前守殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同名賀加殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 れうせ重衛門殿 ^{茶三つ}
 先達殿 ^{茶三袋}
 宮彼殿 ^{茶三つ}

③

同あいた
 やとぬいの助殿 ^{茶三袋}
 弥左衛門殿 ^{ちや三つ}
 おと千世丸 ^{ちや三つ}
 勘兵衛殿 ^{ちや二つ}
 ぼりの内蔵前守殿 ^{茶十袋} ^{茶五つ} ^{茶一握}
 同名わかさ殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同名六郎左衛門殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同名藤兵衛殿 ^{茶三つ}
 いせ屋宿ひこ二郎へ ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 ねんぶつ孫三郎殿 ^{茶三つ}
 みそ屋三右衛門殿 ^{茶三つ}

ここから性格が変わる

▼④

●

★

あい田分
 こゆわいの新兵衛殿 ^{茶三袋}
 桑ヶ寺 ^{茶十袋} ^{茶五つ} ^{茶一握}
 河原さ木のりんすそ ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 知見寺 ^{茶十袋} ^{茶五つ} ^{茶一握}
 ほうそうす ^{茶三袋}
 長忠寺 ^{茶十袋} ^{茶五つ} ^{茶一握}
 はんやう ^{茶五袋} ^{茶十袋}
 ふた寺 ^{茶十袋} ^{茶五つ} ^{茶一握}
 むれう寺 ^{茶五袋} ^{茶十袋}
 宮本之みやさか殿 ^{茶三つ}
 西宮さと殿 ^{茶二つ}
 同六郎左衛門殿 ^{茶二つ}
 わこの筑前殿あつぎ ^{茶三つ}

同あいた分
 ひこ三郎殿 ^{ちや二つ}
 はげの文六殿 ^{ちや三つ}
 丸山いつみ殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 めす田新右衛門殿 ^{茶三つ}
 麻口源助殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同名与左衛門殿 ^{茶二つ}
 弥介殿 ^{茶二袋}
 七右衛門殿 ^{茶二つ}
 宮内衛門殿 ^{茶二つ}
 彦左衛門 ^{ちや二つ}
 神四郎殿 ^{ちや二つ}
 あら町やぶち六右衛門殿 ^{茶三袋}
 はんちやう小沢殿 ^{茶三袋}
 同木丞殿 ^{茶三つ}
 同小沢右丞 ^{茶三袋} ^{茶五つ} ^{茶一握}

六郎左衛門へ ^{茶三つ} ^{茶五つ} ^{茶一握}
 与三衛門殿 ^{茶二つ}
 丹衛門 ^{ちや二つ}
 新左衛門殿 ^{ちや三つ}

原本には空隙

▼

あいたりの分
 しほはさまの宗左衛門殿 ^{ちや二つ}
 同所市衛門殿 ^{茶二つ}
 かな井の与三衛門殿 ^{茶三つ}
 かうさい寺 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 まつ原の宗三衛門殿 ^{ちや三つ}
 わ田原のぬい左衛門殿 ^{ちや二つ}
 同所四郎左衛門殿 ^{ちや二つ}
 かた山新三衛門殿 ^{茶三つ}
 いたは九左衛門殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同所一市殿 ^{ちや二つ}
 かちやさいけ助三衛門殿 ^{ちや二つ}
 かち原のけき殿 ^{茶三つ}
 あな沢の甚右衛門殿 ^{茶二つ}

あいたりの分
 なかこし木工助殿 ^{茶二つ}
 同所系きしよきのあとつ木 ^{茶二つ}
 同所宮内左衛門殿 ^{茶二つ}
 佐蔵主 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 うへのたいらのぬいの助殿 ^{ちや三つ}
 六郎さへもん殿 ^{ちや二つ}
 めす田下總 ^{茶三つ}
 りやうせの清左衛門殿 ^{茶二つ}
 しほはさまの市衛門殿 ^{ちや二つ}
 宮のこし源三殿 ^{茶二つ}
 なか原の文衛門殿 ^{茶二つ}
 かな井の三衛門殿 ^{茶三つ}
 同所彦四郎殿 ^{茶二つ}
 大あし左京之助殿 ^{ちや三つ}
 ぶしいけ清八殿 ^{ちや三つ}

ほうおふちの宗兵衛殿 ^{ちや二つ}
 まちのすまや文後殿 ^{茶五つ} ^{茶十袋}
 同与衛左門殿 ^{ちや三つ} ^{茶五つ} ^{茶一握}

信濃国道者之御祓くばり日記

天正九()年に伊勢内宮の権祢宜
 宇治七郎右衛門尉久家が信濃国の檀那
 を回った際の記録

けみ宮内助殿 ^{茶二つ}
 同所市衛門殿 ^{茶三つ}
 はなれやま勘左衛門殿 ^{ちや二つ}
 こんげんとうの六郎右衛門殿 ^{ちや二つ}
 くらつほの神右衛門殿 ^{茶二つ}
 大くほ三郎さへもん殿 ^{茶二つ}
 同所清左衛門殿 ^{茶二つ}
 同所ぬい衛門殿 ^{ちや二つ}
 三郎衛門殿 ^{茶二つ}
 中やまの新兵衛殿 ^{茶二つ}
 同所たけのそうのひこ三郎殿 ^{ちや二つ}